



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第10号
(8月25日～9月20日)



平成30年8月24日発表 樹上選果マン
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

つがるの収穫は、9月7日頃から！
着果量を点検し、樹上選果の徹底を！！
台風にも備え、風害防止対策を万全に！！

I 概要

8月21日現在の果実肥大は、概ね平年並みから平年を上回っている。

つがるの熟度は、平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは、黒石で9月7日頃から見込まれる。収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせてすぐりもぎを行う。

適正着果に向けて樹上選果が行われているが、園地や品種によっては着果量の多い樹がまだ見られる。高品質生産と充実した花芽形成のため、着色管理や収穫で園地を訪れる機会が多いこの時期、見落としがないか今一度着果量を点検し、樹上選果を徹底する。

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月29日～30日頃に行う。

黒星病の発病葉・発病果は感染源となるので、葉摘み等の作業の際にも見つけ次第摘み取り、処分する。また、菌の密度を低下させるため、中・晩生種を対象に9月15日頃にオーソサイド水和剤80の800倍又はストライド顆粒水和剤1500倍を散布する。

台風にも備え、防風網の点検、整備など風害防止対策をしっかりと行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

8月21日現在の果実肥大は、概ね平年並みから平年を上回っている。

地域	年	つがる	ジョナゴールド	ふじ
黒石 (りんご研究所)	本年	8.4	/	7.4
	平年	8.0		7.2
	前年	8.1		7.5
	平年比	105		103
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本年	8.3	7.8	7.0
	平年	8.3	7.7	7.1
	前年	8.6	7.7	7.6
	平年比	100	101	99
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本年	8.6	8.7	7.5
	平年	8.2	8.1	7.1
	前年	8.2	7.9	7.6
	平年比	105	107	106
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本年	8.2	7.8	7.3
	平年	8.1	7.7	6.9
	前年	8.1	7.4	7.2
	平年比	101	101	106

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月20日現在の熟度は、黒石で平年値と比較して、硬度及び着色指数は同程度、糖度、酸度及びヨード反応は低い。総合的にみて、熟度は平年より3日程度進んでいると見込まれる。

つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：黒石8月20日)

地域	年	果重 (g)	着色	硬度 ($^{\circ}$ N $^{\circ}$)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応
黒石 (りんご研究所)	本年	238	0.6	16.3	10.4	0.292	4.3
	平年	223	0.5	16.4	10.8	0.328	4.8
	前年	222	0.8	16.4	11.3	0.255	4.6

注1 着色：指数0～5 大きい数値ほど着色良好

2 ヨード反応：指数0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

3 落果防止剤散布：8月14日

(3) 作業の進み(8月22日現在)

支柱入れやつがるの葉摘みが行われている。早いところでは、未希ライフの収穫が始まっている。

2 作業の重点

(1) 風害防止対策

台風等に備え、防風網やわい性台樹の結束などについて、再度点検し、補強や取り替えを行う。

また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(2) 黒星病対策

発病葉・発病果は感染源となるので、葉摘み等の作業の際にも見つけ次第摘み取り、処分する。

(3) 樹上選果

ふじ、王林等で着果量の多い樹がまだ見られる。高品質りんご生産や充実した花芽形成のため、今一度着果量を点検し、肥大の劣るものや果形の悪いもの、黒星病などの病虫害被害果、障害果の摘果を徹底する。なお、摘み取った病虫害被害果は適正に処分する。

(4) 「8月末」の薬剤散布

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月29～30日頃に行う。

散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。また、散布むらを生じないように十分な量を丁寧に散布する。

薬剤の散布にあたっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

モモシクイガの産卵が続いているので、無袋栽培ではモモシクイガの防除剤を使用する。

「8月末」の薬剤散布

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量 /10a
黒石 弘前 三戸	8月29 ～30日頃	ベフラン液剤25 1,500倍	5000

①例年炭疽病の発生が多い園地では、オーソサイド水和剤80～800倍も散布する。

②ベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(5) 「9月中旬」の薬剤散布（中・晩生種対象）

「9月中旬」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で9月15日頃に行う。この場合、中・晩生種の無袋果を対象とした「9月中旬頃」のすす斑病・すす点病対策の特別散布は必要ない。

散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。また、散布むらを生じないように十分な量を丁寧に散布する。

薬剤の散布にあたっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

「9月中旬」の薬剤散布(中・晩生種対象)

地 域	時 期	薬 剤 名 と 倍 数	散布量 /10 a
黒 石 弘 前 三 戸	9月15日頃	オーソサイド水和剤80 又はストライド顆粒水和剤	800倍 1,500倍 5 0 0 0

(6) 早生種の収穫

つがるの熟度は、平年より3日程度進んでいることから、早生種の収穫始めは黒石で、きおうが8月29日頃、さんさが9月4日頃、つがるが9月7日頃と見込まれる。

早生種は、熟期が揃わないので地色、着色を見て2～3回くらいに分けて収穫する。収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。

樹上選果作業時に見落としした変形果や傷(障)害程度の大きい果実などは山選果で取り除き、良品出荷に努める。なお、山選果で取り除いた果実は、できるだけ加工用に仕向ける。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり及早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

なお、ストッポール液剤を散布した果実は散布7日後まで、ヒオモン水溶剤を散布した果実は散布4日後までは収穫できないので注意する。

(7) 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

病害虫の発生源を少なくし、樹冠内部に十分日光を入れ、薬液の到達をよくするために、黄色品種でも不要な徒長枝を切り取る。

また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので、日焼けが発生しないように注意しながら支柱入れや枝吊りを行う。

ただし、高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないように、徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊りなどは控える。

(8) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。ポリオキシシンAL水和剤は、薬剤耐性の恐れがあるので、連続散布を避ける。

(9) 炭疽病対策

りんご園周辺のニセアカシアやくるみ類などは伝染源となるので注意する。また、発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める。

(10) 腐らん病対策

夏場は病斑の拡大が一時停止しているが、降雨により未処置病斑から孢子が飛散し、来年以降の発生につながる。胴腐らんの治療部を再点検し、病斑の伸展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。

(11) モモシンクイガ対策

被害果は見つけ次第、摘み取り 7 日以上の水漬けなど適切な処置をする。もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

(12) ナシヒメシンクイ対策

発生の多い園地では、9 月以降もナシヒメシンクイ防除剤を使用する。

(13) リンゴコカクモンハマキ対策

発生の多いところでは、フェロモントラップによる成虫の誘引消長を利用して適期にサムコルフロアブル10の5,000倍、エクシレルS E5,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍、ディアナWDG10,000倍のいずれかを散布する。また、果実に接触している葉を摘み取って、果実被害の軽減に努める。

(14) ハダニ類対策

ハダニ類の発生種を確認し、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は、1 葉当たり 2 個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。

殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年 2 回以内使用のものでも年 1 回の使用とする。ただし、ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは、作用点と同じ薬剤なので合わせて年 1 回以内の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルは、リンゴハダニだけの、マイトコーネフロアブルは、ナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬 剤 名	年使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1 回	○	×
バロックフロアブル	2 回以内	○	×
オマイト水和剤	1 回	○	○
ダニサラバフロアブル	2 回以内	○	○
コロマイト乳剤	1 回	○	○
マイトコーネフロアブル	1 回	×	○
スターマイトフロアブル	1 回	○	○
ダニコングフロアブル	1 回	○	○

○：適用する、×：適用しない

(15) クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋し被害の軽減を図る。

(16) 中・晩生種の着色手入れ

着色手入れは、早生ふじは9月10日頃から、シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）は9月20日頃からは行う。

なお、早くからの強い葉摘みは、品質低下を招くので行わない。

摘葉剤ジョンカラプロを利用する場合は、ふじのみとし、使用時期「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(17) 中生種の除袋

ジョナゴールドの除袋は、9月15日～25日にかけて行う。着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉を摘み取る。

日焼けを出さないため、二重袋の内袋は、果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時にはぐ。

(18) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットの発生が懸念されるので、カルシウム剤の果面散布を行う。

カルシウム剤は、直接果実に付着するように散布する。なお、樹勢の弱い樹や高温時あるいは干ばつ時の散布は、薬害発生（葉縁褐変）のおそれがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(19) 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。なお、防鳥網の網目は35mm以下とする。

3 一般作業

- (1) 苦土欠乏対策 (2) 草刈り

4 今後の作業予定

- (1) 樹上選果
- (2) 着色手入れ、除袋、収穫
- (3) 風害防止対策
- (4) 支柱手直し
- (5) 鳥害防止対策
- (6) 草刈り
- (7) 腐らん病対策

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 りんご共済や農業経営収入保険に加入しましょう！ 》

○りんご共済

「りんご共済」は、風・ひょう・霜などの自然災害等により損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

○農業経営収入保険

平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

青森県農薬危険防止運動展開中！（5月1日～8月31日）

農作業事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

災害に備えて、果樹共済や農業経営収入保険に加入しましょう！

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

次回の「りんご生産情報」第11号は9月20日(木)発表の予定です。

連絡先	： りんご果樹課生産振興グループ
電話番号	： 017-722-1111代表 内線 5092, 5094 017-734-9492直通